

韓国高校生をインターンシップ

県金型工業組合、受け入れ

3カ月、機械加工など指導

県金型工業組合(黒田隆理事長)は、韓国・光州市の工業高校3校から生徒15人を約3カ月間、インターンシップ(就業体験)生として受け入れる。外国人生徒の受け入れは初。同業界で長期間のインターンシップも珍しいという。生徒たちは岐阜大で基礎を学んだ後、組合加盟の5社で機械加工などの指導を受ける。2日、同組合と韓国金型産業振興会が羽島郡岐南町内で覚書を締結した。

(久松孝志)

同組合はこれまで7日間という。今回、日本の高度な工業高校で金型製作や販売などの支援を継続し、技術者育成を図っている。その一環で県内の工業高校生のインターンシップも受け入れているが、通常は3

日間という。今回、日本の高度な工業高校で金型製作や販売などの支援を継続し、技術者育成を図っている。その一環で県内の工業高校生のインターンシップも受け入れているが、通常は3

ラシック金型の精密化が課題とされている上、ウオン高の直撃で輸出が厳しい状況が続いている。15人はいずれも3年生。日本語教育を受けた上で今月末に来日。岐阜大で学んだ後、朝日興業(大垣市)、大垣精工(同)、黒田製作所(岐南町)、岐阜多田精機(岐阜市)、丸順上石津工場(大垣市)の5社で約1カ月半、機械加工技術などの指導を受ける。大垣工高との交流や白川郷訪問など文化交流も行う。

2日、黒田製作所であった調印式で黒田理事長は「日本の高い技



覚書を交わして握手する黒田隆理事長(中央)と金成峰会長(右)ら。羽島郡岐南町伏屋、黒田製作所